

がん医療水準均てん化の推進に関する検討会
報告書起草委員会メンバーによる
参 考 人 か ら の 意 見 聴 取

平成17年3月7日(月)
14:00~16:00
国立がんセンター研究所1階
セミナールーム

議 事 次 第

○議 事

- 1 がん患者団体からの意見聴取
- 2 その他

○資 料

- 1 「日本がん情報センター」設置に関する提案
について
- 2 厚生労働省とのヒアリング資料
(2005年3月3日)

がん医療水準均てん化の推進に関する検討会 起草委員会メンバーによる参考人からの意見聴取

平成17年3月7日(月)
国立がんセンター研究所1階セミナールーム
14:00~16:00

速記

會田
参考人
○

佐藤
参考人
○

三浦
参考人
○

山崎
参考人
○

千村委員○

高嶋委員○

入口

○津熊委員

○野村委員

○
垣添
座長

事務局

傍聴席

入口

がん医療水準均てん化の推進に関する検討会
報告書起草委員会メンバー

座長

所 属 機 関 ・ 役 職	氏 名
九州大学大学院 助教授	後 信
国立がんセンター 総長	垣添 忠生
(独) 国立病院機構四国がんセンター 院長	高嶋 成光
鹿児島県保健福祉部 部長	千村 浩
大阪府立成人病センター 調査部調査課長	津熊 秀明
国立がんセンター中央病院 病院長	野村 和弘

参 考 人

団 体 名	氏 名
市民のためのがん治療の会	會田昭一郎
癌と共に生きる会	佐藤 均
がんを語る有志の会	三浦 捷一
日本がん患者団体協議会 (略称：J C P C)	山崎 文昭

2005年3月7日

がん医療水準均てん化推進に関する検討会
座長 垣添 忠生 殿

がんを語る有志の会 三浦 捷一
癌と共に生きる会 佐藤 均
市民のための癌治療の会 會田 昭一郎
明日の医療を考える会 山崎 文昭

「日本がん情報センター」設置に関する提案について

昨年来、対がん十ヵ年計画に基きがん治療改善をめざした各種の対策が厚生労働省主導のもとに協議されております。我々ががん患者としてもその成果におおきな期待をもっており関係者のご尽力には感謝しております。

しかしながら、昨年来数回もたれた「均てん化に関する検討会」は、当事者であるがん患者不在の医療提供側専門医によるものであり、その討議内容には残念ながらがん患者の意見要望が十分反映されているとは思えず、がん患者の納得をうるには極めて不十分と思われま

す。全ての対策の対象者であり医療消費者であるがん患者の生の声、何をもちも求めているのか、という視点からの論議が今求められているのではないのでしょうか。

各界の専門家のご提案にはそれぞれ重要な課題が含まれており、貴重な提案ですが、がん患者の実感としてはその実効性には疑問を覚える点も多くみうけられます。連日生命の危機、不安とともにくらしているがん患者は今日のこと、自分のこと、に精一杯であり、今すぐ希望がもてる実効性のある政策の立案を望んでいます。

日本のがん治療が、欧米諸国に遅れ、そのため数多くのがん患者が無為に死亡している現実、納得できる治療を受けられない状況は憲法に保障された生存権にかかわる重大事であると認識し、がん患者自身が声を出し、がん患者からの政策を提案をすべきであると考え、今回、患者のための「日本がん情報センター」設立構想を提出いたします。

この構想はがん患者のかかえる数多くの問題を同時に解決することのできる可能性のあるものであり、この構想の早期実現を多くのがん患者が切望しております。

以上がん患者の立場、気持ち、希望をご勘案のうえ善処されることを期待いたします。

以上

日本がん情報センター（JCIC）設置構想

がん患者が必要かつ十分な医療関連情報をもつこと、によりがん患者から医療機関、行政に提案、要望などが可能となる。情報獲得能力、環境にないがん患者でも平等に共通の情報をうるためのシステムを提案する。

患者情報室及び医療コーディネーターの役割

各がん拠点病院に独立部門として患者情報室、専任医療コーディネーターをおく。

1；医師によるがん告知、インフォームドコンセントへの補助

医師との連携による診療の充実（三時間待ち三分間診療の解消）

ある程度の医療知識をもつ医療コーディネーターが電子カルテをもとに患者の病状、などわかりやすく説明、患者の疑問、質問に答える。

2；日本がん情報センター（JCIC）を介するスタンダードオピニオンなどの情報の窓口

医療コーディネーターがパソコン、インターネットなどに不慣れな患者の代行を行う。当該患者の電子カルテ情報を JCIC に送信しその患者に対する治療情報を患者に届けその内容の解説を行う。

3；がん患者用雑誌、書籍の常備、がん患者会情報、公開講座などの広報

各がん患者会よりの紹介、登録、によるネットワーク拡大、各がん患者の求める患者会情報、参加

4；がん患者相談窓口（苦情、疑問、事故の可能性などについて）

メンタルケア、心理療法、などとともにリスクマネジメントに活用

日本がん情報センター（JCIC）の役割およびメリット

1；全国がん拠点病院のデータベース作成、公開

治療情報、生存率、など統一基準のもとでの資料、患者の医療機関選定の補助

2；集学的治療チームによる各種がん患者個々に対する治療アドバイス

がん治療標準ガイドラインの提案提示

3；地域格差の解消

全国どの拠点病院でも共通の情報にもとづいたスタンダード治療が可能。

他の専門病院情報提供によりもっとも有効な治療を推薦できる。

結果としてよい意味での病院間競争が促進される。

4；臨床腫瘍医育成センターの併設

専門指導医を含む集学的医療チームへの参加による実地研修

5；最新医療情報の提供

特殊診療、最新がん治療薬情報、最新放射線療法、最新診断情報の提供

日本がん情報センター（JCIC）構想のための必須条件

1；がん対策本部設置、窓口の一本化

2；がん関連医療機関、学会の協力

3；各がん拠点病院におけるがん患者情報室の設置

4；電子カルテの義務付け

5；がん患者団体支援センター併設

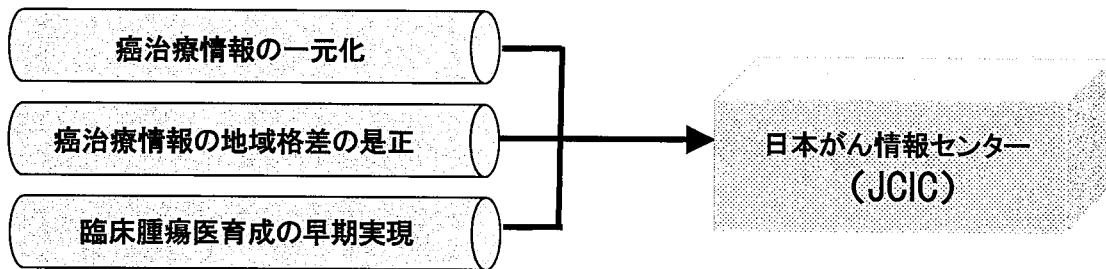
6；医療コーディネーターの育成、配置

上記条件に関しては財源の負担は少なくソフト面での対策が主となる。

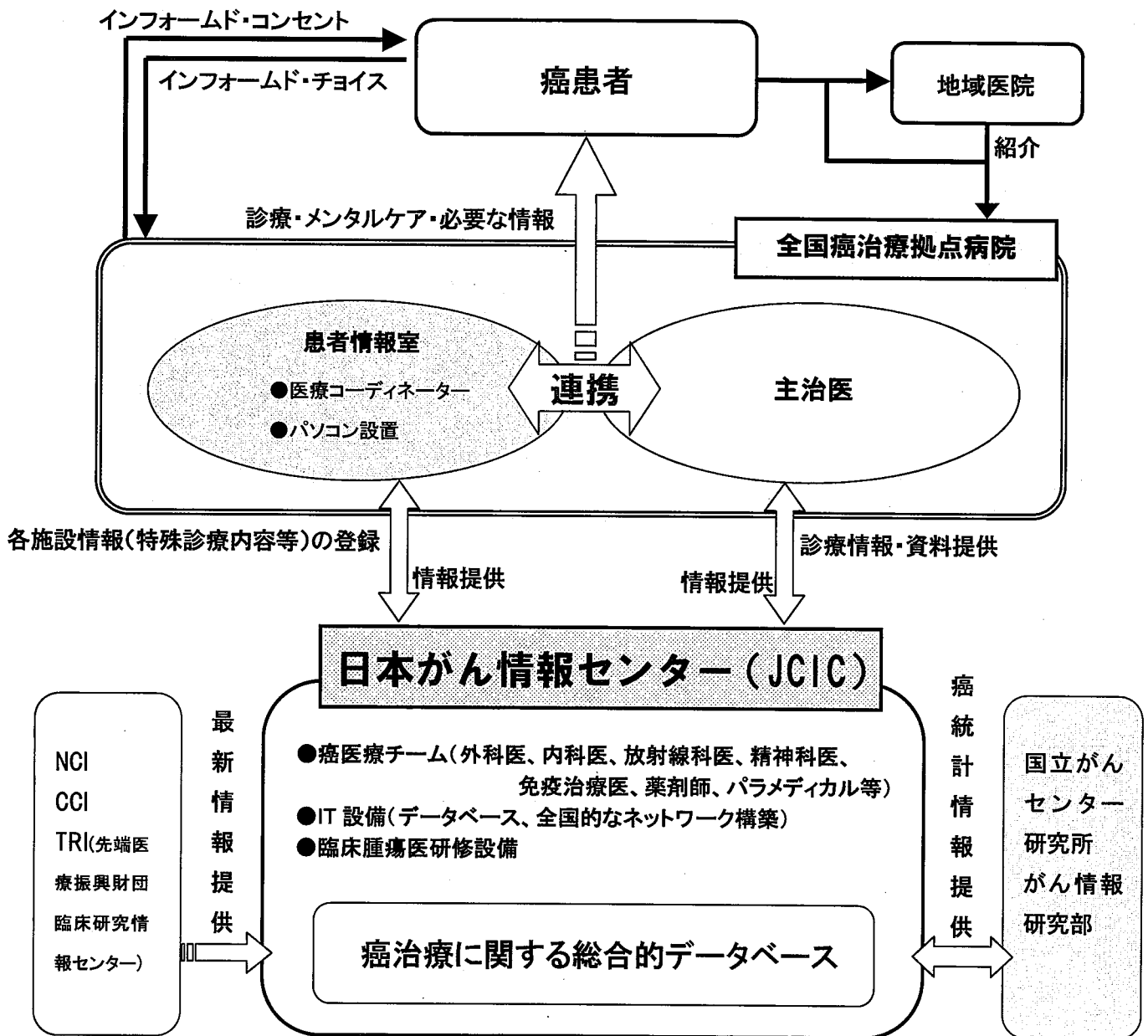
主たるメリットは構想図、「設立目的」に記載。

日本がん情報センター(JCIC:Japan Cancer Information Center)構想

◆設立目的



◆構想図



厚生労働省とのヒアリング資料（2005年3月3日）

（患者会と概ね方向性は同じという事を確認）

当日の資料

私達は日本のがん患者会で、貴省内に設置されている『がん医療水準均てん化の推進に関する検討会』を興味深く拝見させていただいております。

このほど、この検討会も報告書の取りまとめに入りましたが、がん医療医療消費者としてご提案したく、各がん患者会が協働で今回要望書を出させていただきました。

前向きなご検討をよろしく申し上げます。

※共通要望内容

- 1.厚生労働省内にがん治療関連の本部を作り、情報・政策を一本化する。
- 2.がん医療水準均てん化の推進に関する検討会を5回のみを検討会ではなく、情報収集・検討機関として恒常的に設置するものとする。
- 3.がん情報を提供する情報センターの設置。運営に有識者、患者を参加させ、患者に役に立つものを作る。（ガイドライン、全国成績、施設別データ、臨床試験リストなどをデータベース化し、インターネットにて公開）
- 4.認定医をふたつの学会が作ろうとしているが、一本化させる。
- 5.政府は5年でがん死亡者を20%減らすと公約している。今回の均てん化で見込まれる成果の具体的な数値を出す。
- 6.検討会には、受益者としての医療消費者の代表を入れる。
- 7.全がん協調査を、対象をがん拠点病院に拡大、また、匿名でなく実名開示する。
- 8.診療報酬に格差をつける。質の良いがん診療へは診療報酬加点を実施。それを想定した実施案の早期とりまとめ。
- 9.がん専門スタッフトレーニングセンターの設置。（臨床腫瘍医、専門看護師、放射線物理士などの育成）

全国有力がん患者会一同（50音順）	
悪性リンパ腫と戦う会	明日の医療を考える会
がんを語る有志の会	癌治療薬早期認可を求める会
癌と共に生きる会	がんナビゲーション市民ネットワーク
市民のためのがん治療の会	ソレイユ
日本がん患者団体協議会	のぞみの会
リンパの会	

平成17年3月7日

放射線治療医の育成、放射線治療環境整備 並びに情報センター設置に関する要望書

市民のためのがん治療の会
代表 會田 昭一郎

日頃から国民生活の保障及び向上、公衆衛生の向上及び増進の為に御尽力頂き、心から感謝申し上げます。

がんの根治治療のできるのは手術と放射線治療ですが、わが国の放射線治療の適用はようやく25%程度です。手術と同程度の治癒率の放射線治療を国際標準並に上手に適用すれば、患者、医療現場、医療行政ともに大きなメリットがあります。そのための方策として当面、次の3点を要望いたしますので、よろしくご検討いただき政策等に盛り込まれますようお願いいたします。

- (1) 放射線腫瘍医を多数育成できるような医学部教育のみなおしと研修制度の改革
- (2) 医学物理士（放射線治療品質管理士）を国家資格とし、制度的に配置
- (3) セカンドオピニオン相談などを含むがん情報センターの設置

放射線腫瘍医養成のために、医育カリキュラムに、米欧同様に「放射線腫瘍学」および「放射線診断学」の各講座を別々に設置するよう、文部科学省との調整を速やかに進めて頂くと共に、臨床研修において、放射線科を必修とされるよう、希望します。

また、近年のIT技術革新の成果を最も受けております放射線治療機器等の運用に当たる医学物理士の配置を制度化し、放射線技師等を含め、機器の運営の安全性を確保するよう措置すべきです。

さらに、専門的な情報提供だけでなく、セカンドオピニオン相談など、国民が誰でも簡単にがんに関する適切な情報を得られるようながん情報センターを設置を希望します。当面、国立がんセンターのがん情報センターを拡充強化し、各地のがんセンターを支所としてオンライン・ネットワーク化し、誰でもアクセスできるようなシステム構築が肝要です。

平成 17 年 1 月 20 日

がん医療水準均てん化の推進に関する検討会
座長 垣添忠生・国立がんセンター総長殿

拝啓

新春の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

先生におかれましては、厚生労働省の「がん医療水準均てん化の推進に関する検討会」の座長として、「現在の最高のがん医療を日本中に広める」ために、ご尽力いただき厚く御礼申し上げます。

しかし残念ながら検討会では、これまでがん患者の声を申し上げる機会がございませんでした。

当会は、これまでがん治療専門医の育成を以下の通り各機関に求めて参りました実績がございます。

◆平成 15 年 5 月 26 日

坂口力厚生労働大臣（当時）と面会し、世界的標準治療薬の早期認可と臨床腫瘍医の育成に関する「質問書」【参考資料 1】を手渡す。

◆平成 15 年 7 月 2 日

厚生労働省医薬局書記室から、以下の内容を含む回答【参考資料 2】が届く。

「臨床腫瘍医については関連学会でも認定医として育成することを予定しているが、第 3 次対がん 10 年戦略の中でも課題の一つとして検討していく必要があると考えている」

◆平成 16 年 1 月 27 日

坂口厚生労働大臣（当時）と面会し、「がん治療に関する要望書」【参考資料 3】を手渡し、がん医療水準の地域格差是正を求める。

この場で大臣は、地方の医師が最先端医療を学べる研修制度を設けようと考えていると回答【参考資料 4】。

◆平成 16 年 3 月 12 日

第 2 回日本臨床腫瘍学会総会・シンポジウム 2「臨床腫瘍医育成の展望」に、当会の佐藤均会長が招かれ、がん患者の立場から臨床腫瘍医の育成を求める講演を行う。

◆平成 16 年 5 月 23 日

河村建夫文部科学大臣（当時）と面会し、「臨床腫瘍医の育成に関する要望書」【参考資料 5】を、また同席した「市民のためのがん治療の会」は、「放射線治療医の育成並びに放射線治療の基礎知識普及に関する要望書」【参考資料 6】を提出。

この場で大臣からは、『医学教育のためのモデル・コア・カリキュラム』を作成し、化学療法や放射線治療を学生が必ず学ぶべきものと位置づけ、本年から各大学がこのカリキュラムを導入し始めた」との説明を受ける。

上記の活動を行う切っ掛けとなりましたのは、日本には、外科医以外のがん治療の専門医が少ないという現実を知ったことからでした。

アメリカに 9,000 人いると言われる臨床腫瘍医は、日本には 500 人ほどしかおらず、また日本放射線腫瘍学会の認定医も 420 人ほどで、アメリカと比べて一桁少ないと言われております。

全国に、がん診療拠点病院という「箱」が作られても、そこに専門医が配置されなければ、「現在の最高のがん医療」を受けることはできません。

もちろん厚生労働省や文部科学省が、がん治療専門医の育成に取り組み始めたことを私たちは高く評価しております。しかしその内容を見ると、長期戦略的なものが多いと思われれます。

私たち現在、がんと闘っている患者にとっては、一刻も早く専門医を地元配置してほしいのです。そこで、私たちは長期戦略と並んで、専門医を短期的に育成・配置するための戦略をご提案させていただきます。

また、この間、日本臨床腫瘍学会総会や、放射線品質管理士講習会などで耳にした現場の医師たちからの声として多かったのが「専門医を配置するためには、それに見合う「診療報酬」を与えてもらわなければ不可能だ」というものでした。

そこで私たちは、専門医を医療現場にしっかりと配置させるために、それに見合う「診療報酬」きちんと与えることを求めることにしました。

当会といたしましては、こうしたがん患者の立場から意見を検討会に反映させていただきたく、ここに要望書を提出させていただきます。ご参考にしていただければ、幸いに存じます。

敬具

癌と共に生きる会

会長 佐藤 均

事務局：

〒194-0041

東京都町田市玉川学園 8-19-19

TEL & FAX: 042-725-5998

E-mail: gantomo@xg7.so-net.ne.jp

URL: <http://www.cancer-jp.com/>